



環境安全レポート 2021

Environment and Safety Report



三菱ガス化学株式会社

制作部署&お問い合わせ

水島工場 環境保安室

〒712-8525 岡山県倉敷市水島海岸通三丁目10番地

TEL : 086-446-3826 FAX : 086-446-3890

目次

目次……………01

会社概要……………02

工場長メッセージ……………03

環境への配慮……………04

環境・安全方針……………05

労働安全衛生……………07

保安防災……………08

環境保全……………09

環境に関する支援活動……………12

製品・物流安全……………13

社会との対話……………14

発行にあたって

この「環境安全レポート2021」は、三菱ガス化学(株)水島工場が取り組んでいるレスポンシブル・ケア (RC) 活動 (労働安全衛生、保安防災、環境保全、化学品・製品安全、物流安全) について広く社会に報告すること、および自らの活動促進を目的として発行するものです。

このレポートの作成にあたっては、環境省の「環境報告ガイドライン2018年版」を参考にしています。

報告の対象範囲

RC活動は2020年1月1日～ 2020年12月31日までですが、一部2021年の活動を記載しています。

環境パフォーマンスデータは2020年4月1日～ 2021年3月31日のものです。

発行日：2021年9月
次回発行予定日：2022年9月

会社概要

三菱ガス化学

社名 三菱ガス化学株式会社 (登記社名:三菱瓦斯化学株式会社)
 本社所在地 〒100-8324 東京都千代田区丸の内二丁目5番2号 三菱ビル
 創業 1918年(大正7年)1月15日
 設立 1951年(昭和26年)4月21日
 資本金 419億7千万円(2021年3月31日現在)
 事業所 工場:新潟工場、水島工場、鹿島工場、四日市工場、山北工場
 QOLイノベーションセンター白河
 研究所:新潟研究所、平塚研究所、東京研究所

水島工場

水島工場は、自社開発による混合キシレンの分離・異性化をはじめとする様々な技術を駆使して、多様な製品を生み出しています。水島工場の製品は、直接目にすることはありませんが、いろいろな形に姿を変え、私たちの生活に深い関わりを持つ製品群に生まれ変わります。

工場所在地 〒712-8525 岡山県倉敷市水島海岸通三丁目10番地
 敷地面積 55.7万㎡
 従業員数 432名(2021年4月1日現在)



技術受賞	
キシレン分離技術	<ul style="list-style-type: none"> 大河内記念生産賞 化学技術賞 化学工学会賞(技術賞) 石油学会賞 日化協技術賞 燃料協会賞
芳香族アルデヒド及び芳香族ポリカルボン酸製造技術	<ul style="list-style-type: none"> 大河内記念生産賞 化学技術賞 化学工学会賞(技術賞) 石油学会賞 日化協技術賞

主な製品	用途
メタキシレンジアミン	硬化剤、ポリアミド樹脂
無水フタル酸	可塑剤、塗料
芳香族アルデヒド	香料、医薬
キシレン樹脂	粘着剤、樹脂改質剤
ネオペンチルグリコール	塗料、樹脂
トリメチロールプロパン	塗料、インキ
無水トリメリット酸系可塑剤	塩化ビニル用可塑剤
高純度イソフタル酸	PET添加剤、ポリエステル樹脂、塗料

工場長メッセージ

私たちは目指します。 環境保全の推進と安全・安定操業を!!

私たち三菱ガス化学株式会社 (MGC) は、「社会と分かち合える価値の創造」をグループビジョンとしており、社会の信頼と共感を得るとともに、事業活動を通じ、企業価値の向上はもとより、SDGsの達成、ひいては持続可能な社会の実現に貢献することをCSR基本方針として事業活動を行っております。

水島工場におきましても、特に環境・安全の確保について常に自らの責任を認識し、社会からの信頼の向上に努め「事業活動の最優先は安全の確保」を安全理念に生産活動をしております。社員はもとより協力会社の方々と安全の名のもとに一致団結して、不断の取り組みを進めております。安全意識の標準化を行い、工場内のだれもが高いレベルで安全活動を行い、認識できていない潜在化した危険を感知し、改善および根絶するために、保安防災システムの更なる確立・遂行を図り、事故・災害防止に努めていきます。

化学メーカーである当社は、「持続可能な開発」と「循環型社会の構築」の原則のもと、現在の事業活動が将来世代に及ぼす影響を常に考慮しています。高機能でオリジナリティに溢れた各種素材を提供し続け、社会から真に必要とされる企業としての存在感を高めていきたいと考えております。そのために、当工場も1995年よりRC活動を開始し、「環境保全」「労働安全衛生」「保安防災」を柱に、毎年具体的目標を掲げて工場全体で活動を推進しております。

2020年におけるRC活動は「環境保全：環境負荷の削減と持続可能な社会発展への貢献」「労働安全衛生：操業における健康と安全の確保」「保安防災：現場における保安と安心の確保」を基本に、各種リスクアセスメントの推

進、新技術導入などの新たな取り組みも積極的に取り入れて、より良い成果を求めて活動してまいりました。

また、GHGを削減するための省エネルギー活動や環境負荷低減の取り組みについても、具体的な削減計画を立て適切な対応を確実に進めております。

操業に関わる、高圧ガス認定完成・保安検査実施者およびボイラー・第一種圧力容器開放検査周期認定も継続更新し、各々、法規に則った運転、保守、検査により装置の安全・安定運転維持に日々努めております。

本レポートでは、水島工場におけるRC活動を、写真・図・数値などで具体的に示し報告いたしております。地域の皆様が一読され、私どもの活動に対してご理解いただければ幸いです。

2021年9月



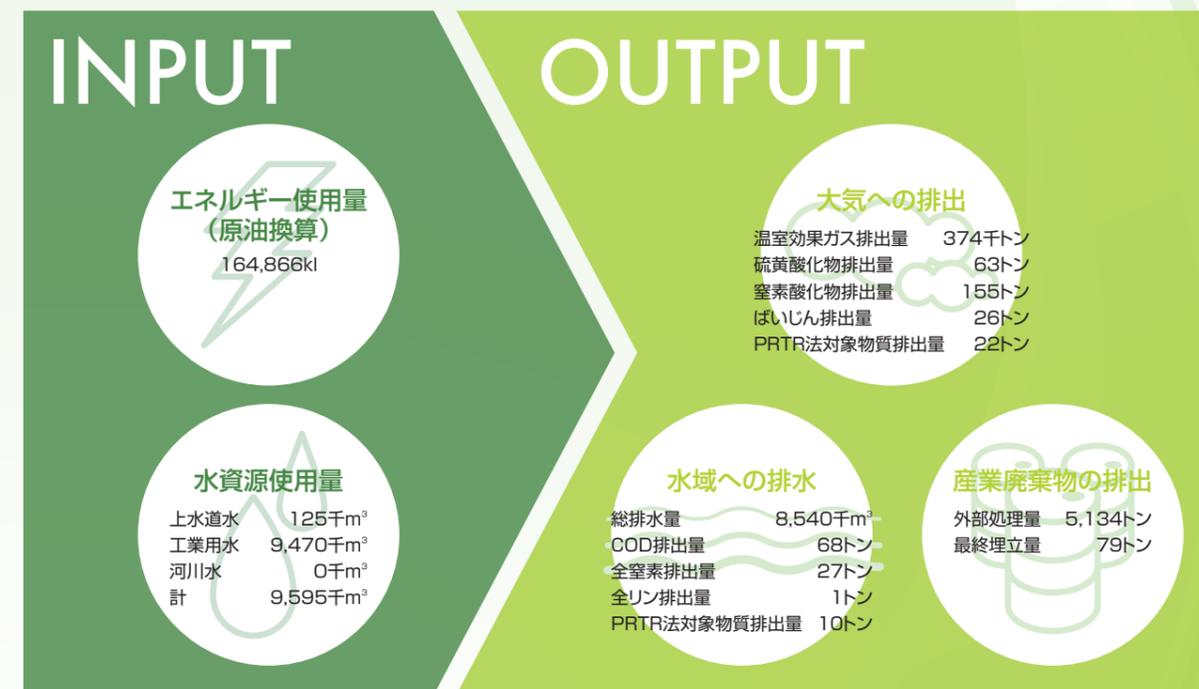
三菱ガス化学(株)水島工場
執行役員工場長

小川 博史

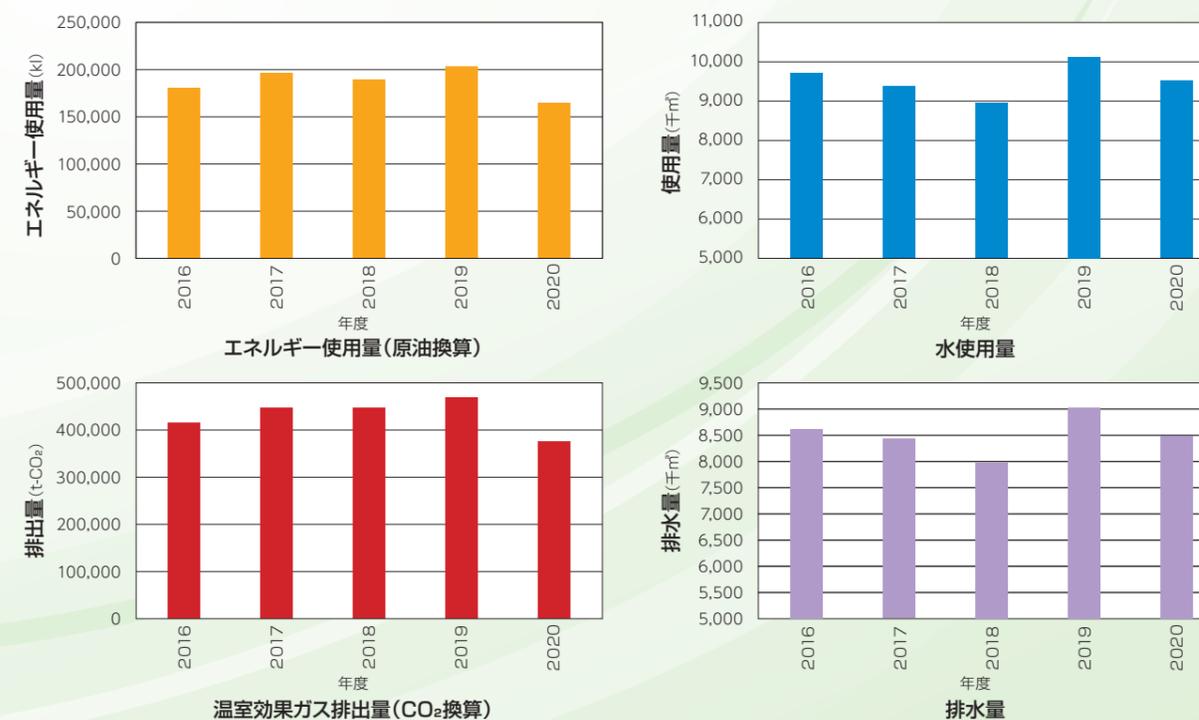
環境への配慮

当工場は、原料資源の効率的利用および環境負荷低減に向けて積極的に取り組んでいます。

2020年度実績



水島工場の主な環境負荷推移



環境・安全方針

三菱ガス化学および水島工場は、社会への貢献と環境・安全の確保について自らの責任を認識し、また持続可能な開発という原則の下に、その事業活動を地球環境の保護に調和させるべく配慮し、社会の信頼向上に努めるためにRC活動を推進します。

MGC環境・安全方針



環境サステナビリティ宣言

三菱ガス化学グループは、気候変動の抑制や循環型社会の構築、生物多様性の保全など、地球規模での環境の健全性を意識した行動を通じて、将来にわたって持続可能な社会発展の実現に貢献します。

1. エネルギーや原材料、水などの資源に関して環境影響の少ない調達を心掛け、資源の効率的な使用を推進します。
2. 温室効果ガスや環境汚染物質などによる環境負荷の削減対策を推進します。
3. リサイクルなどを通じて廃棄物を削減すると共に、廃棄物を適正に管理・処分します。
4. 環境負荷の軽減や環境の回復・健全化に貢献する製品や技術の開発を促進・普及します。
5. 事業所の所在地における環境関連法令や、国際的ルールを遵守します。
6. 環境に関する取り組み情報を開示し、社会との良好なコミュニケーションを保持します。
7. 教育を通じて環境問題への意識向上を図ります。

水島工場 RC 活動計画

MGC環境・安全基本方針の遵守を基本とし、本社で策定した2021年全社RC活動計画を基に水島工場の活動計画を策定し、全員参加によるRC活動を推進しています。

1. 労働安全衛生

ヒヤリ・ハット摘出、改善活動の継続、類似労働災害の再発防止、ヒューマンエラー撲滅に向けた取り組みの強化、MGCグループの保安防災ガイドラインの活用、協会の安全活動の支援や職場環境の改善などを推進し、工場で働く人たちの健康と安全の確保に努める。

2. 保安防災

先進的な技術の検討・導入などによる施設管理の充実、過去の異常現象・トラブルの風化防止、各種リスクアセスメント結果の一元管理、危険源の低減活動、MGCグループの保安防災ガイドラインの活用、保安教育や習得学習の充実により保安と安心の確保に努める。

3. 環境保全

温室効果ガス排出原単位の改善、廃棄物の発生抑制・有効利用と最終処分量削減、PRTR法および日化協対象物質の排出量削減、水資源の効果的な運用と管理強化などを推進し、環境負荷の削減と持続可能な社会発展への貢献を果たす。

4. 化学品・製品安全

化学品・製品の性状と取扱い方法を明確にし、取扱い・使用・廃棄における取扱者の安全と健康の確保に努める。

5. 物流安全

物流トラブルの解析と水平展開の継続推進により原料・製品の物流における安全の確保に努める。

6. 社会との対話

環境安全レポートの継続発行、日本化学工業協会の活動や地域行事などへの積極的な参加によりステークホルダーとの信頼醸成に努める。

7. RC全般

社内事業所間の連携による、RC管理システム（環境・安全・保安管理システム）の継続的改善および強化を図る。

水島工場は、ESG経営の下、CSRを重視するとともにRC精神に則り、自らの責任を認識した上で自主保安活動の展開を通じて危機管理の徹底・労働災害の撲滅・保安の維持と防災・環境保全・化学品製品安全・物流安全に努め、安全・安心な信頼関係の下に地域社会との共生を図る。

環境方針

1. 環境目標の設定と継続的改善

事業活動が環境に与える影響を的確に把握し、定量的な環境目標を設定し、その達成に努めるとともに定期的に見直すことにより、環境マネジメントシステムおよび環境パフォーマンスを継続的に改善させる。

2. 法令の遵守と環境保全・保護活動

水島工場が事業活動を行う際に適用される環境関連の法規制・協定を遵守し、物流を含めた環境汚染の予防および気候変動の抑制、生物多様性の保全に努める。

3. 環境負荷の削減

事業活動においてMGCグループ環境サステナビリティ宣言に掲げる重点項目に沿って、資源の効率的な使用に努めると共に温室効果ガスや環境汚染物質などの削減を図る。

4. 環境への意識向上

環境教育を通じて全ての就業者にSDGs（持続可能な開発目標）達成に貢献する環境管理活動を認識させ、環境に対する意識向上を図る。

5. 環境情報開示

環境安全レポートにより環境に関する取り組み情報を開示し、地域社会との良好なコミュニケーションを保持する。

安全衛生方針

1. 労働安全衛生法などの法令を遵守し、本社制定の総合安全管理規程・工場の基本ルールであるMF総合安全管理規程に従い、秩序ある職場を確保する。

2. 三菱ガス化学株式会社災害防止協議会等と連携し、水島工場で働く全ての就業者が、健康で安全・安心に働けるよう、労働災害の撲滅と働き方改革を行い、快適な職場環境を確保する。

3. マルチリスクアセスメント、化学物質のリスクアセスメントにより抽出した危険源の排除、潜在リスクの最小化を図り、働く者の安全・健康を確保する。

4. 「安全文化」に根ざした、ヒヤリ・ハット摘出と解析および改善活動、KY活動、指差し呼称、5S活動などのツールを積極的に活用し、事故・災害の未然防止に努める。

5. 全ての就業者は、安全衛生に係る教育・研修・訓練を積極的に受け、自己研鑽に努める。

保安防災方針

1. 各種リスクアセスメントや変更管理、日常点検などにより、保安に影響を与える危険源の特定と低減活動を推進し、事故・災害の発生を未然に防止する。

2. 各種監査を有効かつ効果的に実施することにより、保安管理システムの継続的改善を図る。

3. 全ての就業者が特定要求事項を遵守し、設備管理・運転管理・保安管理の強化を図る。

4. 保安管理目標の設定は、環境・安全方針を踏まえた保安管理方針と全社RC活動計画ならびに前年の活動結果に対する見直しを基に行う。

5. 関係行政ならびに水島コンビナート地区保安防災協議会および関係会社と協力し、物流も含めた地域防災とコンビナート事故撲滅に努める。

6. 「安全基盤の強化」「業務の創意工夫」などの積み上げてきた貴重な財産と最新の情報を活用し、保安教育・訓練および自己研鑽を図り、保安管理レベルの向上を図る。

労働安全衛生

工場長巡視

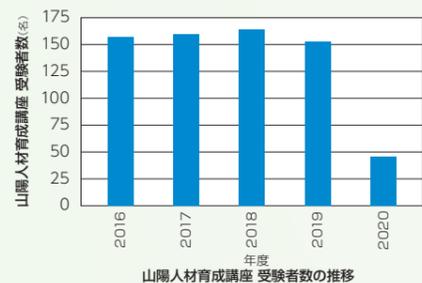
工場長自らが現場に赴き日常工事の安全管理活動・安全対策の実施状況を確認しています。



労働安全衛生教育

1. 山陽人材育成講座の活用

労働災害・異常現象の発生防止の取り組みの一環として、模擬体験やグループワークを通じて安全意識の向上を図ることを目的に毎年多数の社員が講座を受講しています。(2020年は新型コロナウイルスの影響による講座中止により参加者が大幅減少となりました。)



2. 日化協審査員特別賞受賞

当社は化学会社であり化学知識に基づいた安全管理が必須と考えています。当工場では、基礎的な化学の体験型教育の場として化学塾を開講しています。プロセス内で起こる様々な現象を体験し、感性を向上させ、さらなる安全につなげていくことを目的としています。社員の知識・技能向上に繋がるこの取り組みは、日本化学工業協会から認められ、審査員特別賞を受賞しました。



協力会社への支援

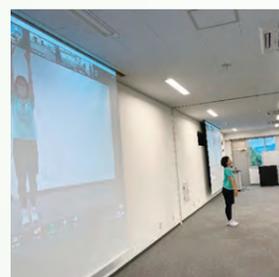
工場には、工事を担当する協力会社・作業を担当する協力会社の皆さんに作業のお手伝いをさせていただいております。

工場と共に働く仲間の安全を守るのは、工場の責任であり、最優先事項と考えています。具体的には、協力会社の皆さんと協議会を組織し、定期的な会議をとって安全情報の共有化や各社が抱える問題点などの解決に向けた支援を行い、災害の防止に繋がっています。



健康の保持・増進に関する取り組み

ロコモティブシンドロームやメタボリック症候群の対策として、外部講師を招いてエクササイズに取り組んでいます。今年は新型コロナウイルス感染防止のため、密を避けるためオンラインによる Zoom 配信を行いました。各職場・各家庭でも参加できるため、家族そろって子供と一緒に参加した社員もおり、社員と家族の健康維持に取り組んでいます。



保安防災

高圧ガス認定事業所

当工場は、高圧ガス保安法における「認定事業所」として、2年連続運転や自らが完成・保安検査を行うために、日常的に様々な改善を推進しています。また、最新技術を用いた運転管理・設備管理にも力を入れ、高いレベルの保安管理技術の向上に向け研鑽を積んでいます。その取り組みが評価され、2019年9月、四回目となる認定（完成・保安）検査実施者に認定されました。5年後の認定更新に向けて今後、AI・IoT技術も取り入れながら更なる自主保安の高度化を目指し、水島コンビナートのトップランナーに追随して行く覚悟です。



専門の検査会社による板厚測定

工場総合防災訓練

災害はいつ発生するかわかりません。その備えとして、工場全体で災害を早期に鎮圧するための訓練を年2回実施しています。今年はブラックアウト訓練を行い、電源喪失の中で避難する訓練を実施しました。



ボイラー等の開放検査周期認定制度

ボイラー及び第一種圧力容器の性能検査において運転や保守に関する管理体制が確立され、定められた基準に基づく高度な管理や自主検査が確実に行われているボイラー等で所轄労働基準監督署長が認めたものについては、開放検査周期認定を受けることが出来ます。

これにより開放検査周期を伸ばすことができ、当工場は2年認定及び4年認定を取得しています。5年毎の認定更新審査も継続して合格しており、今年度も認定更新を予定しています。また、認定要件を満たした機器の認定追加も継続して行っています。

非正常作業リスクアセスメント

2017年より、非正常作業にHAZOP手法を取り入れ、各種リスクアセスメントを計画的に行っています。また、非正常作業に限らず、HAZOPでは補完できない化学プラントの危険源に対し、様々なリスクアセスメントを実施しています。

これらを水島工場のリスクマネジメントとして運用しています。



全社連携の保安力強化

2008年から活動している全社安全活動はAZ活動、Bridge活動として取り組んできました。そして2020年から新たにLINK活動を立ち上げ、これまでの活動を引き継いでいきます。製造部門、工務部門、研究部門を3本柱とした新たな取り組みでは、各事業所の安全管理の具体例などを共有し、安全に対する視点を養い感性を向上させていきます。



環境保全

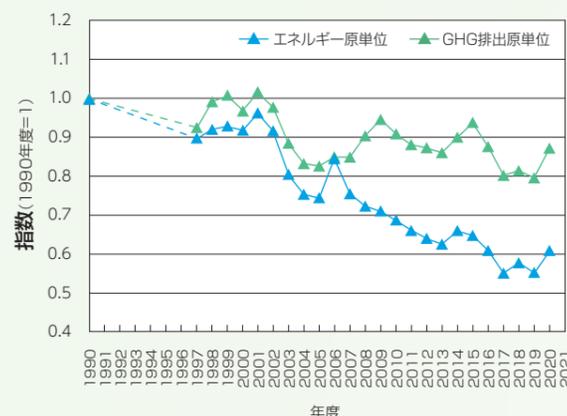
省エネルギー・GHG(温室効果ガス)排出削減/産業廃棄物の排出抑制と削減/化学物質排出削減

省エネルギー・GHG排出削減

当工場では、「環境保全は、化学会社の使命」と捉え、環境負荷低減、省エネルギー、地球温暖化防止に努めています。

工場の活動は、化学プラントの技術的な改善が中心であり、継続的なエネルギー使用量の削減を意識し取り組んでいます。2020年度は、GHG関連テーマについて十数件完遂しました。

その達成度を表す当工場の省エネルギー活動の推移を図に示します。指標としてエネルギー原単位、GHG排出原単位を用いており、達成度は1990年度を基準としています。



水島工場の省エネルギー活動推移

2020年度は、2019年度に比べエネルギー原単位、GHG原単位ともに悪化しました。工場装置の一部停止による生産規模の縮小によるものが大きく影響しました。2019年度に比べ総生産量が減少したことで、エネルギー使用量が約20%減少し、GHG排出量も約19%減少しましたが、生産量減少の影響が大きく、原単位としてはエネルギー原単位が約10%、GHG排出原単位も約10%と悪化しています。

一方で省エネルギー活動は、継続的かつ積極的に取り組み、着実に成果を積み上げています。その具体例としては、①フレアスタック制御最適化による助燃燃料削減、②排水処理設備の温度管理最適化による蒸気量削減、③インシネレーションの最適化に伴う助燃燃料削減、④蒸留塔運転最適化による使用蒸気量削減などが挙げられます。中でも、①は二酸化炭素排出量の削減がおおよそ2,100t-CO₂/年と大きな成果を上げています。活動の結果として、工場全体では約3,000t-CO₂/年の削減を達成しています。

2050年の脱炭素社会に向け、今後もこれまで以上

にエネルギー効率の向上やエネルギー転換に向けた取り組みを続け、環境負荷低減、省エネルギーおよび環境保全に貢献していきます。



オフガス制御を最適化して天然ガス使用量を削減したフレアスタック



制御をシーケンス化して発電効率を高めた発電機

産業廃棄物の排出抑制と削減

3R^{注1}活動

当工場では、設備の新増設などに伴う産業廃棄物の発生を抑制・削減するために、技術・設備的改善を行っています。また、発生した産業廃棄物のうち、廃油は燃料として焼却施設で再利用し、廃酸は中和剤など、金属くずはスクラップの再資源化として一部を有価売却しています。

産業廃棄物の外部委託処理状況などの現地確認

当工場から発生する産業廃棄物および特別管理産業廃棄物^{注2}は、廃油・汚泥・廃酸・木屑・廃プラスチック・燃えがら・ばいじんなどがあります。産業廃棄物は、契約締結している産業廃棄物収集運搬・処分会社に処理を委託しています。

当工場の2020年度の産業廃棄物の全発生量は23,913tでした。そのうち、外部委託処理量は5,134tでした。最終埋立て処分量は79tであり、これは焼却・溶融などの中間処理後の残渣物です。

また、県内外の委託処理会社を訪問し、廃棄物の適正な処理状況や管理体制を確認しています。



ゼロエミッション^{注3}

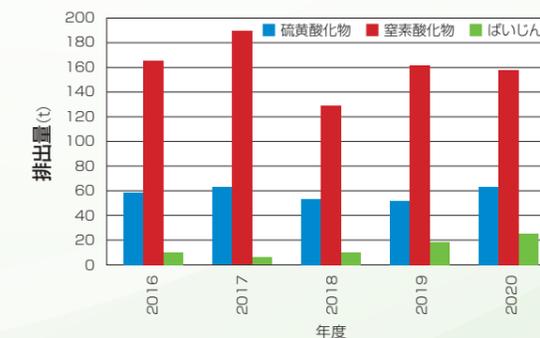
最終埋立て処分量の削減に向けて、さらなる廃棄物発生量の抑制と、有効利用による外部委託処理量の削減に取り組んでいます。

化学物質排出削減

大気汚染防止

当工場から排出される大気汚染物質について、大気汚染防止法などに定める規制基準を遵守することで、大気汚染防止および排出量削減に努めています。

ボイラーなどの燃焼時に発生するばい煙などについては、連続監視測定設備により、窒素酸化物、硫酸酸化物、排ガス量が常時、岡山県環境保健センターへ測定値として送られています。また、オキシダント情報発令時はさらなる排出削減を図っています。

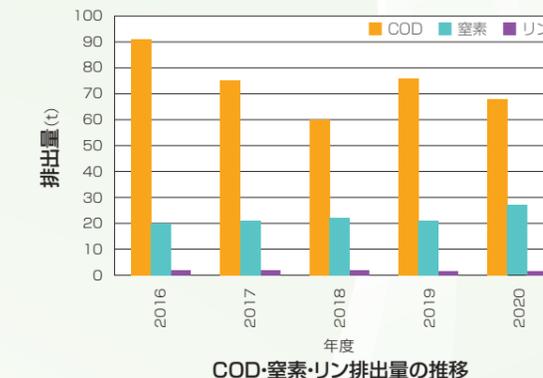


水質汚濁防止

当工場の排水について、水質汚濁防止法などに定める規制基準を遵守するために、水質管理を適切に実行しています。

各施設の排水口には、pH計、TOD計などの測定機器を設置し、異常の早期発見に努めています。また、

活性汚泥処理設備では集合した工場排水を処理し、COD負荷量・全窒素・全リンを24時間連続で分析しています。工場外排水出口である水島港への放流水も、毎日COD値などの分析を行っています。



PRTR届出対象化学物質の排出量削減

当工場では毎年対象物質の排出量を把握するとともに、削減に向けた取り組みを行っています。当工場最も排出量の多い物質はキシレンであり、その多くはタンクからなっています。排出ガス回収装置の更新などの削減を進めた結果、大気へのキシレン排出量は、2005年度の85tに対し2020年度は10tでした。今後も設備機能の維持に努めています。

有害大気汚染物質（ベンゼン）排出量削減

当工場では、水島コンビナート地区周辺の大気中ベンゼン濃度低減に向け、コンビナートのベンゼン取り扱い各社とともに、環境基準値達成のために監視および削減対策に取り組んでいます。



注1: Reduce (発生削減)・Reuse (再使用)・Recycle (再資源化)の3つの取り組み。
 注2: 爆発性・毒性・感染性・その他の人の健康または生活環境にかかわる被害を生ずるおそれがある性状を有する廃棄物。
 注3: 生産活動から出る産業廃棄物の最終埋立て処分量をゼロに近づける運動。MGCでは最終埋立て処分量が廃棄物全発生量の0.3%以下を達成することを目標としている。

環境保全

環境マネジメントシステム

環境保安室長のメッセージ

全国のコンビナート事故件数は高止まりであり、水島コンビナートを見ても減少傾向は見られない状況にあり、憂慮すべき状態が継続しています。昨年の当工場は幸いにして、コンビナート事故に該当する事象は発生しませんでした。一方で墜落・転落に分類される労働災害が多発しました。岡山県下の労働災害件数は増加傾向にあり、事故のみならず労働災害の撲滅も非常に大きな課題です。当工場はRCマネジメントシステムのもと、各RCコードについてPDCAによる目標管理、継続的改善により、事故や労働災害の撲滅は言うまでも無く、環境保全に関しても推進を図っています。昨今、気候変動を引き起こす地球温暖化が進む中、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現は社会が直面する重要課題です。当工場も温室効果ガス排出量の削減、省エネルギーの推進、水資源の有効活用など環境保全と資源の有効活用を推し進めていきます。

MGCグループのCSR方針はグループビジョンである「社会と分かち合える価値の創造」のもと、サステナブルな社会の発展と調和に貢献することです。今後もMGC水島工場は環境保全を推進すると共に、保安防災、安全衛生活動の強化を図り、地域社会との安全・安心な信頼関係を築き共生を図ってまいります。



環境保安室長
中山 了至

ISO14001 認証

当工場は、2000年に認証取得後、環境管理システムの効果的な運用により、生産活動に伴う環境に対する影響の軽減に向けて、環境対策の継続的改善を行っています。今後も環境・保安防災・安全衛生を基盤とし、社会に貢献していきます。



ISO14001 認証書

環境保全目標の設定・実行による継続的改善

MGCグループ環境サステナビリティ宣言に基づき、環境の健全性を意識し、環境負荷低減・改善活動を効果的に取り組んでいます。工場全体で、省エネルギー・大気・排水・廃棄物・温室効果ガス・水資源の管理・生物多様性の保護などの環境管理に関する年間の活動目標を策定し、計画的に活動を行っています。

内部監査

当工場の保安管理システム^{注4}が、関連法規制・保安管理方針・諸規定類に準拠し、効率的かつ有効に運用されているかどうかを確認・検証し、評価・助言するために内部監査を定期的に行っています。

内部監査の種類

RC内部監査	高圧ガス認定内部監査
環境内部監査(ISO14001)	協力会社へのRC監査
本社によるRC監査	本社による高圧ガス認定事業所監査



本社によるRC監査

次年度への改善活動

当工場のRC活動・監査結果に対して、工場長が妥当性・有効性の評価を行い、次年度の活動に向けて改善活動を行っています。

注4：環境・保安防災・安全衛生管理活動を維持・改善するシステム

品質保証室の環境に関する支援活動

環境関連に関する支援

品質保証室では、工場内で製造出荷される製品に関する分析を主業務とし、生産に伴い発生する環境に関する事項について、分析面からの支援をしています。その分析結果を基に工場から排出される物質の法規制値、届け出値の遵法性を確認・監視しています。



品質保証室長
林 正義

環境関連分析は以下の通りです。

- ① 排水：各製造課の排水を分析することで、法規制に関する物質の監視、及び排水負荷量削減に寄与。
- ② 大気：工場の各特定施設排出ガス、有害大気汚染物質（ベンゼン）などを測定。法規制値、届け出値等の遵法性を確認・監視。
- ③ 産業廃棄物：各製造課の工程分析及び廃棄物処理法に係る分析をすることで廃棄物の減量化に寄与。
- ④ 土壌：工場内の工事・掘削などで発生する残土の土壌試験を行い有害物質の有無を確認。
- ⑤ 省エネルギー：各部門の省エネ対策における分析面での支援。
- ⑥ その他：PRTR報告用分析、公害健康法分析の実施。



水島港への放流水のサンプリング

ISO9001 認証

1995年5月15日にISO9001品質マネジメントシステムの認証を取得しています。社会のニーズに応え、有用で安全性及び信頼性の高い、優れた製品・サービスを提供し、お客様・消費者のご満足とご信頼を獲得する為、ISO9001の基本理念に則り日々の改善改良によりコストの最適化と安定・安全な製品を提供しております。



ISO9001 認証書

ISO9001 付属書

顧客ニーズによる環境関連物質調査

当工場の製品を購入して頂いている顧客から製品中の環境関連物質の調査、測定依頼が多く寄せられています。

顧客ニーズによる環境関連物質調査

- 環境負荷物質調査
- 原材料に関する調査
- 化学物質含有調査
- VHC※含有調査
- RoHS指定物質含有調査
- 特定化学物質含有調査
- グリーン調達対策物質に関する調査と非含有証明

※人の健康および環境に対して非常に高い懸念を抱かせる物質。

本社経由で右の一覧のような調査依頼が毎月数十件程あります。製品中の有害物質調査も定期的に行っており品質の維持、問い合わせに対応できるようにしています。

製品・物流安全

製品の安全輸送

化学製品を輸送する者の責務として、製品の性状・安全性・取り扱い方法を明確にし、それらを扱う全ての人の健康と安全、および環境を守る様々な活動を展開しています。

当工場の製品は、適正な荷姿でお客様にお届けできるよう、充填・包装作業、運搬に係る全ての工程において、安全管理および環境対策を行うことで、物流トラブルの削減に努めています。



物流GL
神田 京子

安全への取り組み

現場で実際に物流業務に携わる協力会社2社と合同パトロールを実施しています。3社でパトロールを行うことで、現場の問題点を洗い出すことができ、そこから安全や健康に配慮した作業環境、作業効率の向上に向けた設備改善等へ繋がられています。また、各社から挙げられるヒヤリハット情報の共有を行い、物流安全の実現を図っています。



協力会社による作業風景



合同パトロールの様子



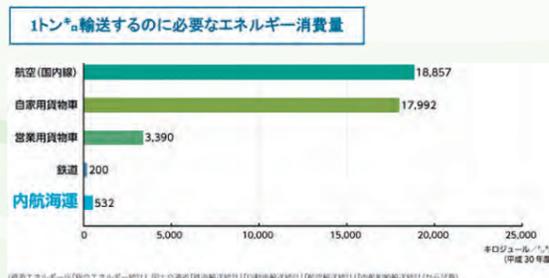
原料や製品の荷役

トラック輸送から環境負荷の少ない内航海運への転換を図っています。内航海運は国内の港と港とを結び、一度に大量の貨物を長距離輸送できる地球環境にやさしい輸送機関です。

水島工場では、輸出コンテナ輸送に利用しており、主にヨーロッパやアメリカ向けのメタキシレンジアミンやアジア向けのネオペンチルグリコールを玉島港から神戸港に輸送しています。



内航船への積み込み風景



社会との対話

高梁川クリーン作戦

労働組合が主催し、工場近くを流れる一級河川、高梁川の清掃を行いました。社員やその家族にも参加していただき、綺麗なまちづくりに取り組みました。



工場見学会開催

学生向けの工場見学を対面・オンライン両方で実施しました。例年のような形での実施は難しい中、製品や装置などに関して説明しました。



学生向けインターンシップ開催

学生向けにインターンシップを開催しました。実習で装置や製品について知っていただくほか、コンビナートや水島地区についても紹介しました。

